

「瞑想と科学」 1. 『リグ・ヴェーダ』 X. 129. 1-6 「ナーサディーヤ讃歌」

高野山大学 図書館長 前谷 彰 (恵紹)

『リグ・ヴェーダ』(Rg=Veda)と呼ばれる世界最古の聖典(B.C.1500年頃から編纂されはじめ、B.C.800年頃には現存の形態を整えた)は、バラモン教におけるバラモンの詩人たちが深い瞑想体験によって現れた世界を神々に対する讃歌として集成したものである。その中でも、バラモン教内において一元論的思惟が最高潮に達した頃に作られた「ナーサディーヤ讃歌」を以下に紹介することにしよう。

- 1 そのとき(太初において)無もなかった。有もなかった。空界もなければ、その上の天もなかった。何ものかが発動した。いずこに、誰の庇護の下に。深くして測ることのできない水は存在したのかもしれない。2 そのとき、死もなかった。不死もなかった。夜と昼の標識(日月・星辰)もなかった。かの唯一なるもの(中性の根本原理 tad- ekam)は自力によって風なく呼吸していた(生存の兆候。これよりほかには、何ものも存在してはいなかった。3 太初において、暗黒は暗黒に蔽われていた。このすべては光明なき水波であった。空虚に蔽われ、発現しつつあるもの、かの唯一なるものは、熱(tapas)の力によって出生した(生命の開始)。4 最初に意欲(manasa)がかの唯一なるものに現じた。これは意思の第一の種子であった。詩人(バラモンの聖仙)たちは熟慮して心に求め、有の親縁(起源)を無に発見した。5 彼ら(詩人たち)の縄尺は横に張られた。いったい下方はあるのか、上方はあるのか。射精者(能動的男性力)があった。能力(受動的女性力)があった。自存力(本能=女性力)は下に、許容力(男性力)は上に。6 いったい誰か知るといのか。誰がここに宣伝するの。この創造(現世界の出現)はどこから生じ、どこからやって来たのか。神々はこの世界の創造より後である。(辻直四郎・前谷訳)

これは、ある意味での宇宙開闢讃歌と言ってよいが、ここでは宇宙は太初において「有」も「無」もなく、最初に「意欲」が「かの唯一なるもの」(tad-ekam はやがて puruṣa という人間のもととなる原人となり、最終的には宇宙の根本原理であるブラフマンへと展開)に現じたというのである。

最先端物理学である量子力学は、物質の最小単位(ミクロ)を追求する学問であるが、量子力学では現実世界における物質の究極的な実態は何もつかめず、結局は真の物質など存在しないと主張する。つまり、ミクロの物質は「粒子であると同時に波である」という認識のもとに、ミクロの物質は個としての粒子でありながら、同時に波のように宇宙の隅々まで非局所的に広がっているというのである。

量子力学の父と言われるニールス・ボーア(Niels Henrik David Bohr: 1922年にノーベル物理学賞受賞)は、「人間の意識が現実を創造し、客観的な事物は存在しない」と断言するが、上に見た「ナーサディーヤ讃歌」も同様であり、ニールス・ボーアの主張は仏教における「三界唯心」の思想と完全に一致する。「三界唯心」とは、瑜伽行派(唯識派 5世紀頃最も隆盛を極める)という瞑想至上主義の思想家たちが、深い瞑想の末に行き着いた考え方で、この世のすべての現象は自分の心が作り出した<仮相の世界>で、自己の想念を変えることによってこの世の事象はいくらでも変えることができる、というものである。

ヴェーダ文献が作られ、ブラーフマナ文献の時代を経て、(古)ウパニシャッド文献の時代(B.C.600年頃)に入ると、汎神論的思想が展開されるようになり、かの唯一なるものは宇宙の根本原理たるブラフマン(brahman)という名を冠し、自己を形成する本核としてのアートマン(ātman)とは一体であるという「梵我一如」の思想が体系づけられることとなる。(続く)

和歌山地域図書館協議会企画展 和歌山シンボル和歌山城

-消失から再建まで-



和歌山城天守閣は空襲により焼失し、昭和33年に再建されて今年で60周年を迎えました。

それを記念して和歌山城に関連した図書を開架しました。この企画は和歌山地域図書館協議会加盟館で開催されていきました。

2018年 8月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2018年 9月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

	9:00-20:00		9:00-17:00
	休館日		13:00-20:00
	13:00-19:00		9:00-19:00



〒648-0280

和歌山県伊都郡高野町

高野山 385

高野山大学 図書館閲覧室

TEL : 0736-56-3835

FAX : 0736-56-5590

E-mail

service-lib@koyasan-u.ac.jp

twitter : @koyasanlib



城下町の風景：カラーでよむ『紀伊国名所図会』

額田雅裕解説, 芝田浩子彩色

請求記号：713/シ/152, 登録番号：000166388

和歌山県 郷土史事典

小山豊編

請求記号：713/ワ/21, 登録番号：000026177

南海の鎮和歌山城 その歴史と文化

和歌山市立博物館編

請求記号：713/ワ/53, 登録番号：000129207

※和歌山地域図書館協議会とは和歌山県在住者・在勤者が和歌山県内の図書館の利用ができるサービスです。

図書の貸出もできますが、送料等は個人負担です。

ご利用を希望の方はカウンターまでお越しください。



山の日特集

8月11日の「山の日」にちなみ、図書館では「山」に関する図書を開架しています。

アウトドアで楽しむ場所、修行の場として挑む場所、様々な表情を見せる山の魅力をぜひご覧ください。

和歌山県の山 分県登山ガイド

児嶋弘幸著

請求記号：763/ワ/5-19, 登録番号：000166200

山を楽しむ

小山豊編

請求記号：岩新/新赤/803, 登録番号：000079100

山の宗教 修験道とは何か

久保田展弘監修

請求記号：477/ヤ/7, 登録番号：000031585